

令和元年度 第1回 加西市子ども・子育て会議

日時：令和元年6月11日（火）

14時56分～16時34分

場所：加西市役所1階多目的ホール

1. 開会

2. 報告

(1) 国の保育料無償化に伴う3～5歳児の給食費を無償化について

○会長

情緒論だけでやるっていっても、財源が転げたら、また取ろうかという話になると困ります。安定した財源の確保等、具体的な金額は算定があれば、後でお願いします。

受益者負担の原則がありますね、丸抱えというのはいかがと。受益者負担の意見があろうかと思えます。その議論は乗り越えられたんですかね。

○事務局

保育料は無償だけど、給食代は実費徴収してくださいというのが、国の考え方です。加西市では毎日の給食の提供も保育の重要な要素であり、全面的に市が支援することで保育の質の確保にもつながるため、公私立ともに支援していく責務があると考え、このように決めました。

○会長

全国に誇れる政策の第一歩ですね。具体的に第一歩踏み出すというのはすばらしいことです。各園で自園式の給食ですか。小学校はセンター方式ですかね。

○A委員

小学校はセンター方式の学校と自校給食の学校があります。センター方式に移行途中です。

○会長

保育園、幼稚園等の給食についてはどうですか。センター方式か自園式とか。自園式が基本でしょうね。B委員そうですね。

○B委員 原則、自園調理です。

○会長

子供が大人になっても持ちこたえられていく健康の基盤として、食事というのは非常に重要です。食事内容の質にも注視し、無料にするから粗悪では困ります。無料だけでも素晴らしい食事内容であることが理想であると思います。

家庭においても、子供にしっかりとした食事を提供する責任が保護者にあります。食事を提供する家庭においても、非常に大事なポイントでもある。そこを前提にした無償化というのはすばらしいと思います。皆さんよろしいですか。何か問題点ありますか。あと財源。政権が変わっても継続する、大丈夫ですね。

○事務局 そうなると思います。

○会長

加西市の取り組みが他の地域に伝わって、広まっていくと期待したいです。一石を投じた形だと思っています。ありがとうございます。それでは、特にご意見等なければ次の議題に移ります。

3. 協議

(1) 「第2期加西市子ども・子育て支援事業計画」骨子案について

○会長

基本理念は、ど派手な基本理念を掲げる必要ないと思いますよね。この子育てっていうのは地味であっていいと思います。基本を押さえておくっていうのが第一ですね。その上に多少価値を持たせて、加西市の現状の中でどう取り組んでいくか。これはデータが出てきていますので、それとの絡みの中で基本理念っていうのは変わっていくと思います。

地域が異なればスローガンも違うんだなと思いますね。大垣市はJRから見えるんですね。スローガンが。すごいなと。大垣女子短大とかそういったところがあって、地元の幼児教育や保育と学校との連携とか上手くやっている。手堅い環境基盤をつくっている印象があります。

私、三田市の多世代交流館の運営委員長をしており、そこに湊川短大とか関西学院大学とか、そういった教育や社会づくりの専門的なインフラ関係があり、そういったところと上手にタイアップしていく、そういった条件があります。加西市もそういった環境があれば、ジョイントできればいいけれど。大学があればできるかと言えば、そうではないですね。子育て支援っていうのは、地域社会総がかりでやっていくということなので、少し利活用できるようなインフラ環境等も、もう一度整理しながら進めていくのが手堅いところだと思いますね。

○C委員

話が戻りますが、別紙1の無償化で、財源の話がありましたが、この財源問題については要綱なのか条例なのか、そこはいかがでしょうか。

○事務局 加西市の保育料に関する法令は規則で定めています。

○C委員

規則ということは議会という格好ではなくて、政権が変わればという縛りはないということですね。

○事務局 そうです。

○C委員

念のため確認させていただきました。別紙2の26頁、利用者支援事業があります。この利用者支援事業とはいうのはイメージしにくいと思いました。学童保育の場合、放課後健全育成事業、放課後児童クラブと言うこともあります。その言葉の説明、用語の定義みたいなものがあるとうれしいと感じたのが1つ。

それから、25頁の一番下、これ病児保育ですが、病後児はないですね。言葉の定義と施策の意味合いですね。これがワンフレーズでもいいので、読み取れる工夫があれば、読み手の側にはありがたいと感じましたので、尋ねさせていただきました。

○会長

ご指摘のところ、財源はきちっとしておると、確認の上で報告書が恐らくつくられていくということですね。今年度限りの財源確保じゃないよという前提です。

23頁からの各事業展開は、ある意味、拡散的というかバラバラになってわかりにくいところがあります。いろんな施策を図示化した資料として、それぞれの取り組みを、構造化、図示化して、どこどこが似てるけどちょっとここが違うとか、これとこれはこういうつながりが段階的にこうこうなるんだとかですね、何か立体的構造化っていうのが、もし、できるのであればと思います。

全体の事業デザインのつながりみたいなものを図示化していかれたらいいと思いました。

27頁に評価指標による減少というのがありました。この不安や負担感を感じる、感じないとか、満足、満足でないというのは、例えば、第1子の場合と子どもを3人持つ親というのは、若干違うのではと。何となく私でも第1子の場合、素人だからちょっと過剰な不安感とか覚えた過去もあります。

2番目、3番目になると「そんなもんやで」と、少し親としても成長してくるので、「いいんじゃないとか」って気になったりする。もし、統計的に第1子、2子がチェックできれば、お子さんの属性で分析するとより不明確なところがクリアになるかな。これは統計的な技ですけど、もし可能であれば。

○B委員

別紙2に社会動態の推移の棒グラフが出ています。転入と転出の差で社会的な増減があらわしてありますが、一番最後に平成28年以降転出と転入の差が小さくなりつつありますということで、29年度はマイナス21。その前はマイナス93で、かなり社会減が減ってきています。確かに平成25年の5年前は1,164ですけど、これが28年の2年前からぼんと上がり1,317になっている。これはどうなんでしょうか、外国人の転入とかそういうものも含めた内訳でしょうか。

○事務局 外国人の転入転出は全て反映されてます。

○B委員

近年、外国人の研修生が増えたから、転入が多くなったとか、何かそういうことは調べられますか。

○事務局 可能だと思います。

○B委員

日本人だけが増えたなら、加西市に定住する人が増えたと思いますが、外国人として一時的に加西に滞在する人、働く人が増えたということなら、大分意味合いが違ってくる。研修生はそんなに長く加西市に住まないから、子育てとか関わってこない問題があります。転入者が増えたということは前々から言われていますが、この内訳がどうなのか、調べていただきたいと思います。

もう1つは転出者の方ですけど、これは大体一定しているというか少し波が山がありますけれど、1,446から1,338までというところで、100ちょっとのところを上がったり下がったりしているわけですけど、これも少し転出が減ってきたようですが、これについてのなぜ転出が減ったのかはわかるのでしょうか。

転入人口

	25	26	27	28	29
外国人	168	232	251	264	304
日本人	996	911	936	1,043	1,013
転入合計	1,164	1,143	1,187	1,307	1,317

転出人口

	25	26	27	28	29
外国人	232	211	234	199	196
日本人	1,214	1,110	1,212	1,201	1,142
転出合計	1,446	1,321	1,446	1,400	1,338

○事務局

実際に調べたわけではないですが、転出する方はある一定の年齢の方が多いのかなと。特に高校を出たり、大学へ行くとか、結婚も含めて。若い年齢の人口が、減ってくると母数自体が減っているのかと思いますが、実際のところは調べてみないとわかりません。

○会長

昼間人口と夜人口とかね。都心というか新宿でも、昔は人が集まってたんだけど、新宿のあたりの小学校でも複式学級とかね、夜人口がいないんで、夜は閑散として。だから、加西市の場合も人口動態をどうとらえるかは、今、提案の中で問題なのかなと。

例えば、三田市には関西学院大学総合政策学部があるにもかかわらず、そこに住所を置く学生はいないですよ。全部、宝塚、尼崎、神戸といった所から通うんですよ。昼間は人口多いんだけど夜になるとみんな出ちゃう。アルバイト先もないんで、みんな都市圏の方に行っちゃうというね。

学生というのは非常に流動階層なんですけど、それをどうしていくかという議論が実際あるんですよ

ね。加西市の場合は、おそらくそこまではないと思いますが。

○B委員 学生が住むところを探す場合は、アルバイト先というのが大きな（条件）。

○事務局 先ほどの外国人の内訳とあわせて、そのあたりもまた確認させていただきます。

○会長 そうですか。昼間と夜との人口の差っていうのがね、加西市はあまりないですかね。

○事務局 不勉強で、申し訳ないです。

○B委員 かつては昼間人口のほうが多いですよ。

○会長

加西市で働く人が多い。3ページの社会動態の推移から、いろいろ読みとっていくのもおもしろいかもしれません。事務局の若い感覚でちょっと議論してってください。

○B委員

兵庫県で4つか5つの市で、昼間人口の多い市。大体が神戸とか姫路とか大都市で、吸引力の自力のあるところですけど、小さな地方都市でプラスになっている市は珍しい。かつての相生市のような基幹産業があって、外から来るなら別の話。なぜ、加西市が人口減に悩みながら、昼間人口が多いのか。加西の立ち位置みたいなのが出てくると思いますが。

○会長

そういう潜在的保育力みたいなところに言及することができるかもしれませんね。「加西市で子育てするとやっぱりいいよ」というスローガンになっていくのか、どうなんだろうかと思えますけど。

「子育ての魅力いっぱいのもち加西市」とか、そんなスローガンがいいんじゃないですかね。なぜ魅力がいっぱいなのかというと幾つか視点として出てくれば、そういう基本理念のところにも表現として示すことができるのではと思います。また後で、ご意見頂戴して、時間的な制約もありますので。次の議題です。

(2)「加西市立認定こども園民営化基本方針」(素案)について

○会長

別紙3では北播5市の施設数についてもあります。北播5市だけではない傾向だろうとは思いますが。本市においても、どう舵取りをしていけばいいのか議論にしていこうと思います。

新たに公立園を設置する場合、民営圧迫ということで、公立園の設置を反対するというのは結構あります。それとは逆の方向で、民営化の方向性が提案されております。いかがでしょうか。

○C委員

別紙3の5頁。Ⅲの「民間園では・・・」というフレーズがあります。多様な保育ニーズに応えるという、その答えとしては0～2歳の保育利用が待機している状況があり、そういったことにも応えていくということと解してよろしいですか。

要は、量的にきちっとマーケティング調査をし、そして民間園にしていく。そういう中でこういう待機児童対策についても、きちっと枠組みができてますよというのが1つ。もう1つは、質的にやはり公私連携することによって高め合って、質も、子育て支援の質も高まるというイメージなのかなと私は勝手に解釈していますが。

○事務局

運営主体が変わるということはありませんけれども、必要になるその定員ですとか受け皿というのは、そこが必要である以上は定員を減らすことなく従前の定員を確保するという態勢で臨みたいと考えています。例えば公立園から私立園になって定員がきゅっと狭くなることにはならないようにしていきたい。

○C委員

悪い言い方ですが、暫定定員ですね。定員はそのまま、15か20%ぐらい超過がいけるんですかね。保育スペースが整っていて、保育士がいれば、それを何年続けられるかわかりませんが、ずっと定員以上の利用があれば、これは定員を変更して、収益からすれば低くなっていくというシステムですね。そういったことも総合的に考えながら量も質も落とさないし、そして、この部分は解決できるんです。計画ですのでね、そのように勝手に解釈させていただいて。いかがでしょうか。

○事務局

基本的な考え方としては、必要な定員を確保するという事は、一番の条件にしていきたいと思えます。ただ、将来的にその定員を割ることが見えていけば、減らしていくこともあります。その中で質も量もしっかり確保していくという考え方でいいかと思えます。

○会長

今のご質問は、非常に大事なポイントで、民営化でお任せではなく、その最低限の質保証という、最低限というのは最高の質保証をしていくという、そういった意味の多様化と質保証というのは別々のことではなく、それは基本的にはかみ合わせていく取り組みであってほしいと思えます。

それで、公立園、私立園含めて、先生方の研修体系というのはどうなっていますかね。公私立、一緒に研修をしたりするところ、滋賀県もそうなんですけれど、加西市は私立は私立だけで、公立は公立だけでとか、どんな体系になっていますか。

○事務局

加西市は古くから私立、公立の保育所、今ではこども園ですが、両方一緒に合同研修会をしていますし、交流についても大事にしていきたいと考えており、これからも続けていきたいと考えています。

○会長

田井委員もそれでよろしいですかね。それまでの研修、今までのように合同の研修で。

○D委員

公立園では研修が義務づけられていますので、公立幼稚園、こども園長会等、いろいろなところで研修をしっかりとしております。私立園と一緒に学び合う研修もありますが、しっかり研修をして、学んだことを保育に生かせる環境をつくっていくことも大事だと思います。

○会長

市内の公立、私立、どこに行っても、加西市としての幼児期の教育、保育の質をきちっと共有できている基盤をつくった上での多様化、民営化というそれが大前提になりますよね。だから、その前提としての保育者の方、幼稚園や認定こども園の保育教諭とか保育所の保育士の方々の共通の加西市の幼児期の教育を担うという前提の中での研修体系っていう、今後一層具体的に推進していただくことが、民営化の効率性を高めていくということになると思います。お任せではちょっと異なりますよね。

例えば、東京とか川崎のほうに私ども卒業生が就職するんですが、会社が経営するというのがあるんですよ。結構大規模で、1つの法人が200人ぐらい採用する。そうなったら、そこだけで研修するんですね。そうするとその地域の教育、幼児期の教育保育の質保証ではなくて、企業の営利的なところで都合のいいような保育戦略をしていくというところが大都会ではあつたりします。

受け皿となる事業者は、市内の認定こども園や保育所の運営実績である社会福祉法人や学校法人を想定しということで、例えば企業を想定するということは加西市はないんですね。あるいはフランチャイズのところ結構ありますよね、都会では。その発想はないんですね。

○事務局

可能性はあるかもしれませんが、まずは市内の事業者優先的に声かけ、そこからスタートと考えております。

○会長　まずは加西市の事業所、実績を持つところに打診してみるという形ですね。

○事務局　そうです。

○会長

そうしないと大手がわーっと来て全部支配してしまうと加西市のいろんなものがひっくり返ってしまいますよね。そういった意味では、民営化といっても加西市で実績を持っている事業所、法人等にまずは打診してくるということですよ。大手のフランチャイズに、市場開放しろって言われるかもしれませんが、それは前提にしないと。その地域の味を損なわないためには、事業所に打診する場合も意が必要かもしれませんね。ほかにどうでしょうか。意外な着眼でも結構ですが。

○E委員

今の話とは違うんですけど、子育て世代のお母様方からは幾つか意見をいただいているんですけど、それは後ほどの方がよろしければ後ほどにします。

○会長

その他のところでですか。では、またその辺はご披露を。とりあえず2つ目の素案についてもご意見頂戴したいので、また今後においても十分検討していただきたいと思います。ありがとうございました。

4 その他

○会長

協議事項がこれで終わりました。その他のところで、今、小田委員から持ち寄っていただいているご意見もありますので、ご披露いただければありがたいです。

○E委員

今も私自身の子供がこども園にお世話になっている状態で、小学校のことがどうなんだろうっていうことは、他のお母様方から聞くことしかありません。私自身、結婚して加西に来たので、加西で住むことに、今まで自分が育ってきた環境と違うギャップをたくさん感じてきているのが事実なんですけど、同じような保護者の方もたくさんおられて、いろいろご意見をもらったので、簡単にまとめてお伝えしたいと思います。

まず、2・3年前なんですけれど、まだ子供が園に入る前に「ほくぶキッズ」で、加西市役所から何名か来られて、子育て世代の方の意見が聞きたいので、私たちも広場の先生に残ってと言われて、、結構たくさんお母様がおられたと思いますが、そのときに幾つか意見を言ったんです。

私は、まだ子供が小さかったのでそのときは余り意見は言えなかったんですけど、ほかのお母さんがいろいろ意見を言っておられて、そのときに覚えている意見と、最近保護者の方にお聞きした意見が、また同じような要望で、あれ、2、3年経ってるのにあの話どうなったのかなということが幾つかあったので、それについてまず最初にお話したいと思います。

まず、加西市に嫁いで来られて、子育てしていることで、加西市は消防団がすごい活気づいているというか、加西に来たら旦那さんは消防団に入りましょうみたいな、強制ではないんですけどもお誘いの仕方がちょっと強制のように感じている方がすごく多くて、子育ての世代に異常な負担がかかっているようです。北条の方はおっしゃらないんですけどその周り、少し離れた若い子育て世代の方が少ない地域の若い世代は感じているようです。

消防団自体はすごくいいと思いますが、礼式とか操法大会が近くなると毎日のように主人は仕事から急いで帰ってきて、準備から練習、片付けまでしたら夜11時とかになって、そこからやっと一息つけるけれど、そうなったら子供たちは寝てしまっていてみたいなことが週に4、5回とかあり、大会前はずっと毎日になるようです。消防団員も何年か経ったら出ていけるので、そのときまで皆さん頑

張っておられるみたいですが、少し離れた地域ですともう15年以上消防団にいるパパも聞きます。退団ができない状態で限界を感じて、市外へ出ていってしまう家族もいる。

消防団がある、お祭り入れなきゃいけないっていうそういうことが、負担に感じて出ていってしまうお友達もいるっていう意見を聞いて、これはぜひとも、多分その2、3年前にも言ったと思います。加西市の方に言ってどうなることかと思いますが、ぜひ考えてほしいって切実にお母さん涙目でおっしゃってましたのでお伝えしておきます。

それと、あと加西市には「ほくぶキッズ」と「ぜんぼうキッズ」がありますが、西脇市にはすごい立派な児童館ができて、2、3年前のときにもそんな意見をたくさん言った方もおられたと思います。それもどうなったのかというのをみんな言っていました。

玉丘公園も駐車場も狭くて休みの日に家族で行くと、朝早く行けば、すぐに車が停められないんです。お昼から少しと思って行くとやっぱり駐車場がなかったり、もうぎゅうぎゅう詰めで車を停めていたりするので、駐車場の場所があればなど。あと日陰が少なくって、子供たちが遊ぶのに日影があったらいいなというのと、あと加西市はプールがないので、プールはほしいですけど、せめて水遊びができるジャブジャブ池みたいなのを、玉丘公園は広くて敷地もあるのでそういう場所をつくってもらえたらいいなって思っている保護者の方が多いので、どこかで子供を連れて、遊びたいなって加西のお母さんが想像すると、西脇のミライエに行こうとか、小野のひまわり公園に行こうとか、結局市外に目が行ってしまうので、ぜひ、近くで近所の方と遊べるような場所があればとみんなおっしゃってました。

最後に、小学校ですが、登下校の子供見守りサービスは加西市はどうされているのかなと思って。ちょっと調べてみたら加古川市とか姫路市とか三田市とかは子供見守りサービスとあって、子供が学校に入ったらメールが届く仕組みがあったりとか、GPSまではいかないですが、子供が校門を出たら保護者にメールが来るようです。お金がかかることなので、全員保護者の方がされるかはわかりません。加西市は広くて遠いから、何十分もかけて登校している子供もいて、保護者の方も不安に思う方も多いようです。他の市がされていることとかも、ぜひ目を向けて、都会じゃないですけど、JR本線が通っているところの方が都会に見えてしましますが、そういうところで導入されていることとかも目を向けて、幼稚園、こども園だけでなくその後のサポートもしていただけたら、もっと子育て世代が増えるんじゃないかなと思いました。以上です。

○会長

一つの考え方として幼児期の教育・保育と社会教育との接点みたいなのもあったりしましたね。芦屋でこんな話がありました。どこの幼稚園選びますかというのと、余り園に借り出されないところを選ぶんだと。今の消防団の話とちょっと重なって、余り関わらないといけなかったら、こんなところでは落ち着いては子育てできないみたいなね。

東条町の方へ行きますと、親たちのつながりがある意味では消防団に結構、力を入れて、お子さん抱えておられる親たちのつながりが、子育て環境の幅と厚みを増していくことにもつながっていくという意見もあります。借り出されるだけの負担感だけではなくて、そのことが全体として、消防団だけでやるのではなくて、ある意味子供たちの健全な地域社会環境をつくる見守り隊になっていってる

というか、どの子に対しても声をかけていくとか、そういう社会基盤になっていってる話も聞いたりしてますが、いろんなご意見いただきましたんで、協議会でも一応お聞きしたということで、事務局でまた検討いただけたらと思います。

最近、子供をめぐる事案がありますけど、GPS付きのものを持ってるという小学生は今は基本になりましたね。私の孫も京都東山にいます。GPSを持たされて監視されとるのかなと思いつつも、これからまた社会の状況がいろいろ変わったりすると本当に幼児期の教育、小学生なども含めて安心して住める、学校に行ける。そういう住民の皆さん方が、安心して暮らせる地域づくり、まちづくり、加西市づくりにつながっていく、そういったところにもひとつご検討いただきたいと思いますね。

それから、ジャブジャブ池みたいなたまり場、近くにあれば、思わず寄ってみようかというね。都市公園、児童公園とかね、そういうものをもう一度見直しして、思わず多世代の人がそこに寄ってみようかという、そういう環境などの配置も子育てしやすい、住みやすいまちづくりにつながっていくと思ったりしますね。至るところに何かスポットがあると何かくつろげる、集まりたくなる、集いたくなる。いろんな人たちがそれぞれ加西市のいろんな地域に居場所が確認できるっていう、そういうインフラ環境ということも今後市としてもご検討されたらいかがでしょうか。非常に具体的なお意見ありがとうございました。

これで私の進行役は解かしていただき、事務局のほうにお返ししますね。何かスケジュール等々ございますでしょうか。

○事務局

各委員さんからご意見お一人お一人お聞きしたいと思うんですが、時間の都合上申しわけありません。アンケートだけでは伝えきれないこともあります。また、今度、キッズでもお話することもあり、前回と同じ話になるかもしれませんが、実際に保護者の皆さんと話をしながら、ご意見を伺う機会をつくろうと改めて思いましたので、また、保護者の委員には個別に対応させていただきたいと思いますが、そういう形で進めてもよろしいでしょうか。

○会長 よろしく申し上げます。

○事務局 次回日程は10月8日15時からです。

5. 開会